

第1章 小学校における事例

個別の指導計画は、保護者や関係機関と連携を取りながら作成します。

まず、フェイスシートP55に、児童の概要を書き込みます。その後も、引き続き記録をし、学年が変わっても関係者で内容を引き継いでいきます。

また、家庭での様子や今までの様子について知っておくことも大切です。保護者と連携をとり、家庭での生活の様子（学習・お手伝い・余暇・生活経験等）を確認しつつ、児童の目標について共通認識を持ちましょう。

1 個別の指導計画作成の手順

(1) ステップ1 [実態把握]

1日の時間に沿って、児童の学習や生活を思い出してみましょう。

登校の様子は？

学校に来たときの持ち物の片付けは？

トイレの時は？

朝の会の時は？

校外に出たときの様子は？

学習の時の様子は？

交流の学習の様子は？

係の仕事・当番の作業の様子は？



掃除の様子は？

休憩時間の様子は？

食事の様子は？

「どんなことが好きか」「どんなことに興味があるか」「どんなことだと続けてできるか」など、児童が今できていることを確認します。



今できていることやできている状態、興味があることなどを、個別の指導計画の『現在の状況』の欄に書きます。課題も書きますが、「学年相応にできているかどうか」という視点から、できないことを書くのではなく、今できていることをベースにした上で課題を書きます。

また、どの児童にも大切な「自分から動く力」「自分で選択して行動する力」を小さいときから確実に育てていきましょう。「言えば分かる」という捉えは、「言わなければならない」状態を作りやすく、児童に指示待ちの態度を育ててしまうことがあります。活動の際に、「自分から気づいて動いているかどうか」を必ず観察します。

手立てを考える際には、以下のような実態を見ておくことが必要です。具体的には、次ページ以降に示しています。

- ・ 理解の方法 —— どうやったら分かるか
- ・ 表現の方法 —— どうやったら、自分の意思表示ができるか
- ・ 関わり方 —— どんな方法が使えるか
- ・ 学習しやすい環境 —— どんな配慮が必要か

児童の実態については、保護者・担任・指導員等、児童に関わる人みんなで共通認識を持つておく必要があります。



(2) ステップ2 [指導目標の設定]

児童の姿が具体的に思い浮かぶようになった段階で、「どんな児童になって欲しいか」を考えてみましょう。⇔ 長期目標となります。

個別の指導計画の『今年度の目標』の欄に書きます。今年度終わりの児童の姿を思い浮かべて、指導の重点目標になるものを書きます。

指導計画の項目は、「基本的生活習慣」「人との関わり」「学習内容」に分かれています。

児童によって、必要な目標項目が違います。必要な項目を選んだり、児童に合った項目を作ったりして目標を立てます。

今、できている様子から、どんなことを目標にできそうか考え、個別の指導計画の『目標』の欄に書きます。

児童が自分から取り組むことができていることについては、
引き続き同じ内容で取り組む。
課題をレベルアップする。
別の課題を設定する。

手立てがあれば、できるかもしれないことについては、
できるように手立てを考えてみる。
手立ての内容を変える。
手立てがあってできるようになれば、手立てを徐々に減らしていく。

指導項目の例については、P 42 に示しています。

ア 指導目標を立てるときの留意事項

教科の内容の基礎づくりについて

学年を下げるだけの対応ではなく、その児童が生活していく上で必要とする内容、その児童が学習として楽しめるレベルの内容を計画します。

また、その児童の分かり方(認知特性に応じて、得意な力を使って学習する)を見て、効率よく学習できるように計画します。

その児童にとって簡単すぎる課題を繰り返しすぎると飽きます。難しすぎる課題は、学習への意欲を減退させます。分からないからといって、時間をかけすぎることはやめましょう。どうして児童が分からないのかを考え、指導の内容や環境を見直したり、児童の気分転換を図ったりすることも大切です。

生活年齢に応じた指導内容

小学校高学年からは、できることを増やす視点だけでなく、できるようになったことをいろいろな場面で応用・活用する力をつけ、生活の幅を広げていく視点が必要です。自分ができることを実生活で使う経験を積み重ねて自信をつけ、社会生活につながります。

友達と関わり合える内容

児童の生活経験を踏まえ、自発的に活動でき、友達と関わり合える内容を計画します。社会生活のスキルや関わり方のスキルが、具体的に身につく指導内容を計画しましょう。

指導内容を計画するときに考えておくこと

「毎日の積み重ねで、身につけていくもの」「年ごとの繰り返して、年単位でレベルアップしていくもの」「今もっている力で生活していくもの」を分けて考えておきます。

領域・教科を合わせた指導について

認知の面・記憶の面で、難しいところが多い児童であるということを認識し、常に「分かるようにするには?」「覚えておけるようにするには?」と考えて、手立てを考えます。

次のような流れで活動を行うと、学習したことが定着しやすくなります。

- ・ 事前学習で、活動内容をつかむ。
- ・ 活動当日は、学習してきたことを基に自分で動く。
- ・ 事後学習で、イメージと言葉（その児童の表現の手段）を強く結びつける。

社会性について

「大人になったときの姿」を念頭に置いておくことが必要です。毎日繰り返し行っていることは、良いことも望ましくないことも身につけていきます。今の児童の行動が実社会での生活の豊かさや生活のしやすさにつながるかどうかを検討し、児童の実態に合わせた目標を設定します。

交流学习について

「友達と一緒に活動できた」ことだけが評価となることは避け、教科・領域等の学習内容としての目標を設定します。



イ 指導項目等の例

1 指導項目の例

(1) 基本的な生活習慣・・・「日常生活の指導」で指導します。

- ・ 登校：靴の脱ぎはき、片付け、かさの扱い、など
- ・ 朝の準備：持ってきた物を指定された置き場所に置く、着替えなど
- ・ 朝の会：日付・天気・健康観察・給食の献立・歌・スピーチなど
- ・ 授業の準備：持ち物をそろえる・持ち物を片付ける
- ・ 着替え・身だしなみ・清潔習慣
- ・ 排泄、手洗い：ズボンを下げないで排尿できる。鍵を閉めて個室を使うことができる。



等

自分でできていればよいではありません。
学校外のトイレを使ったときに、他人から見て違和感のないレベルまで高めましょう。

- ・ 給食当番・給食の片付け・歯磨き・うがい・歯ブラシやコップの洗浄と片付け
- ・ 食事：食事のマナー、道具の使い方
- ・ 休憩時間の過ごし方
- ・ 健康、安全：保健室の利用、避難訓練、交通指導など
- ・ 移動：校内・校外
- ・ 帰りの会
- ・ 下校



休職指導が中心となりますが、校内・家庭内だけでなく、校外でも通用するよう指導しましょう。

(2) 学習内容

教育課程については、学習指導要領（小学校・特別支援学校）を参考にし、児童の実態に合わせて設定します。

単に「経験をさせる」「生活経験を広げる」という目標にとどまらず、その活動の中で「その子がどんな力をつけるために何をするか」明確にし、目標を立てます。

領域・教科を合わせた指導（日常生活の指導・生活単元学習等）

（例）



行事単元、季節単元、校外学習、調理・洗濯等の生活スキル

- ・ 教科の力を最大活用
- ・ 自分で最後までやり通す
- ・ 家庭外、学校外で通用する基本的な生活習慣
- ・ 社会経験の拡大 家庭への般化



栽培活動

「育てたい野菜を考える 種
や苗を買ってくる 畑を整える
育てる、生長の様子を観察する
収穫する」というように単元全
体に子どもが関わる活動内容



学校行事に向けての活動

- ・ 事前学習、事後学習
- ・ 集団の動きの把握と自分なりの参加の仕方
- ・ その子どもに合わせた練習の仕方

野外活動や修学旅行

一日の「基本的生活習慣」をグレードア
ップする機会

事前学習、事後学習を丁寧に行うことで、
自分から動ける機会を増やす
余暇活動への参加を見越しての活動内容



教科別の指導

- ・ 算数（マッチング、形はめ、数量概念、計算、文章問題、時間、日にち、表、グラフ、比較、量と測定、図形、金銭の扱いなど）
- ・ 国語（聞く、話す、読む、書くなど）
- ・ 社会（校内探検、地域、市、地図、公共の施設、働く人、経済、身近な時事問題、法律など）
- ・ 理科（天気、植物、動物、昆虫、磁石、電池、人体など）

領域別の指導（道徳・特別活動・自立活動）

参考図書：

- ・ 知的障害特別支援学校用の教科書（国語・算数・音楽）・解説書 文部科学省
- ・ 全国特別支援学校知的障害教育校長会 各教科・領域の目標及び内容並びに具体的内容例
- ・ 全面的な発達をめざす障害児学級の学習指導計画案集（改訂版） 同成社
- ・ 学習レディネス指導シリーズ 1 読みを育てる 2 書きを育てる 3 数を育てる
コレ・ル社
- ・ 特殊学級・養護学校用 長所活用型指導で子どもが変わる 図書文化社
- ・ 暮らしに役立つ国語（数学・社会） 東洋館出版

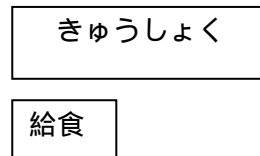
2 手立てを考えるとときに子どもの実態を把握しておく項目の例

(1) 理解の方法

「なにを」「いつ」「だれと」「どこで」「どうするか」等が分かるために、今使える方法とこれから使えそうな方法は？条件を組み合わせて、子どもが自分で確実に分かる組み合わせを探しましょう。

- ・ 言葉（音声）〔普通の会話、短い文、単語〕
〔早めに、普通に、ゆっくり、繰り返す〕
〔易しい言葉、生活年齢相当、ちょっと難しい言葉、キャラクター調〕
- ・ 音
〔音楽、音、チャイム〕
- ・ 言葉（書き言葉）〔長文、短文、箇条書き、単語〕〔漢字交じり、ひらがな〕
〔一覧表、何枚かのカード、1枚のカード〕
〔文字の大きさ：大きい、小さい〕
- ・ 絵、図
〔カラー、線書き〕〔具体的、抽象的、マーク〕
〔そのものだけ、背景有り〕〔大きい、小さい〕
- ・ 写真
〔カラー、白黒〕〔そのものだけ、背景有り〕〔大きい、小さい〕
- ・ 具体物
〔実物、実物大の模型、小さい模型〕
- ・ 動き
〔子どもの動きに手を添える、動きをやってみせる、手さし、指さし、ジェスチャー、サイン、手話〕
- ・ モデル
〔できあがり見本、物の配置図、作業工程を実物で示した物〕

（例）「給食」という予定を自分で把握するには、どの方法が合っている？



(2) 表現の方法

どうやったら、自分の意思表示、意思伝達ができるかを考えましょう。

- ・ YES/NO の返事
〔視線、うなずきや首振り、該当するときに手を挙げる、体で×の合図、×カードの提示、ことばで言う〕
- ・ 選択肢から選ぶ。(示し方は、『理解』の項参照)
- ・ 要求表現
〔目的の物のところまで大人を連れて行く、視線、手さし、指さし、ジェスチャー、サイン、手話、カード、ことば〕
- ・ 否定の表現
〔泣く、やらない、その場から離れる、首を振る、「いや」「やめて」と言う、その場に合った言葉を使い感じよく断る〕
- ・ 援助を求める
〔視線、大人のそばに行く、カードで伝える、言葉のリストから選ぶ、言葉で必要なことを言う、頼む人に合わせて適切な言葉を選んで使う〕
- ・ 感情・感想
〔表情カード、気持ちや感想の言葉のリスト、言う、絵で表す、作文で表す〕
- ・ 言葉だけで伝わりにくいときに、絵や図を描いて補足する。
- ・ コミュニケーションエイド(会話補助装置)の活用
- ・ 電話、ファックス、Eメール、携帯電話のメール、携帯電話の映像(メモ、音声メモ)

- ・ 自分で選ぶ（物・やりたいこと・望ましい行動や言動）＜選び方＞
- ・ 必要な資料を探したり、人に尋ねたりして自分で選べる。
- ・ 関係する資料が室内のどこかにあれば、選べる。
- ・ 選ぶために必要な資料が机上に準備されていたら、選ぶことができる。
- ・ いくつかの選択肢（示すために何を使うかは、『理解』の項を参照）があれば選べる。

(3) 関わり方

どんな方法が使えるか考える。



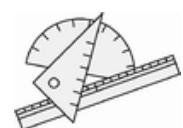
- ・ 関心を引く方法
〔関わりたい人に近づく・近くにいる・正面に行く・見る・肩をたたく・名前を呼ぶ〕
- ・ ソーシャルスキル（人と関わるときにその子にできそうな望ましい行動・セリフは？）
- ・ 自分の行動を振り返るための手段
- ・ 望ましい行動を学習するための手段
- ・ 行動をコントロールするための手段

(4) 学習しやすい環境

どんな配慮が必要か、どんな条件なら学習しやすいかを考えましょう。

周囲の配慮によるのか、本人のコントロール力によるのか考えましょう。

- ・ 身体の安全 廊下を歩行することの徹底
体の動きが安定しないときの支え方、姿勢を安定させるグッズの利用
学習しやすい机やイス、生活しやすくなるグッズの利用
移動の時の手段：車イス、ヘッドギア
- ・ 音、聞こえ方 いすの足にテニスボール、一斉の指示のあと、個別に指示
イヤーマフ、ヘッドフォン、ノイズキャンセリングイヤホン
- ・ 光・見え方 その人が見えやすい明るさ、カーテン、眼鏡、サングラス
図と地のコントラスト、文字や絵の大きさ、フォント、文字の太さ、
字間
- ・ 人の動き・声などの刺激 机の向き、隣の机との距離、隣の席の子どもの様子、
周りが見えないようにする仕切り
- ・ 暑さ、寒さ 気温の学習と体感の言語化、衣服の調節、涼しくするグッズの活用、
暖かくするグッズの活用
- ・ その場にいることがつらいときの対応 『これがあれば落ち着く』グッズの活用、
外出許可の求め方、居場所の知らせ方
- ・ 体の調子の把握と対応 朝の健康観察の方法（調子や様子が表現できる方法の工夫）、
「調子がこうだからこうしよう」という調節の方法
- ・ 手先の動き 操作しやすいものを選んで使う（衣服や靴の工夫、自分で使えるかばん類、
弁当箱、水筒、財布、いろいろな大きさのマス目のノート、バリアフリーの文具）
操作しやすい動作（道具を持つ位置や向き、支え方等）の学習と練習、
道具を使いやすくする目印



個別の指導計画 記入例 A児

児童名 () 1年生

平成〇年10月〇日

《今年度の目標》 ○排泄の自立（排尿・排便をトイレで行えるようになる）

○口唇・呼吸機能の向上（給食で、牛乳がストローで飲めるようになる。口で息を吹ける様になる。鼻水をかめるようになる）

○時間割の流れが分かり、色々な学習に興味をもつ。（授業の始まり、終わりが分かる。ひらがな・数字が分かるようになる）

領域/環境	項目	状況（上段：4月、下段：10月）	目標（段階的に）	指導・支援の手立て	評価	
基本的 生活習慣 ・身辺自立 ・健康	排泄	排泄は、トイレには促すと行く。うまく便器にできず4月2回ほど便器の前で下着を濡らす。また、その場から離れたときに申告することがある。ズボンパンツは全部下ろす。大便は下着にする。排泄後の手洗いは行わない。家庭ではおねしょをしている。	①下着を濡らさないで、排泄ができるようになる。 ②大便の申告ができるようになる。	・下着がぬれないように便器の前に立つ練習をする。（立ち方を補助する。） ・絵本（大便に関するポップアップ絵本）を見る。 ・お気に入りのキャラクターのぬいぐるみと一緒にトイレに行く。 ・連合野外活動のときに、早朝排泄を実施する。（6月末）	①○ ②○	
		前期の課題は終了した。おねしょは、連合野外活動での早朝排泄が成功し、その後、家庭でも継続したところ、おねしょはなくなった。（ごくたまにはあるようである）	③排泄後の手洗いができるようになる。	・言葉をかける。		
	着脱	着替え	着脱は気持ちが向けば自分で行おうとする。気持ちが切り替えられない時には泣く。シャツのボタンの留めはすしが難しい。頼むことができないのでそのままのままだ。前後の区別が難しい。	①自分で着替えようとする。	・マットを敷いたコーナーで着替えることを勧める。 ・「手伝って」と言うよう促し、言った後でボタンをかける。	①△
			遊びに夢中になると、気持ちが切り替えられないことがあるが、泣くことはない。終わってからの着替えは、積極的に自分から行う。ボタンは技術的に難しい。	①自分で着替えようとする。 ②プレザーのボタンを、はすすことができる。 ③プレザーのボタンを、はめることができる。	・授業カードをとり、次の授業（体育）の確認をする。	
		靴	座って自分で履く。左右を間違っていることが多い。（外履き・上靴とも）指摘すると直すのを拒否して泣く。	①正しく履こうとするようになる。	・正しくはけたときには、「ピンポーン」と評価して誉める。 ・教師が正しい履き方を見せる。「（友達に）正しい履き方のモデルを示してもらい、ほめる。」といった状況を見せる。直さなかった時には無理強いせずそのままにする。	①○
	「ピンポーン」の意味を理解して、正しく履こうとするようになった。しかし、故意に間違ったり、勘違いしたりすることもある。泣くことはなくなったが、直すことは難しい。上靴の反対履きが多い。		②印を見て、正しく履くことができる。	・靴にシールで印をする。		
	片づけ	朝の荷物の片付けが一人では難しく、そのままにして遊んでいる。チャイムを聞いて遊びを終了することが難しい。気が向くと、片付ける。	①チャイムがなったときに、教師や友達の声かけや行動を見て、片付けようとする。	・チャイムがなったときに、教師や友達の声かけや行動を見せるようにする。 ・全て一人で片付けることは難しいので、そばで同時に片付けたり、片付けやすいようそばにかごを置く。	①△	
		かばんをロッカーに片づけることはできるようになったが、かばんの中の荷物が残っているままのことが多い。上級生の行動を見て、片づけを始めることもある。気持ちが切り替えられないこともある。	①チャイムがなったときに、教師や友達の声かけや行動を見て、片付けようとする。 ①教師がそばについて言葉をかけると、朝の荷物の片づけができる。	・雰囲気作りに、片づけ音楽を流す。（3分程度）		
	食事	食べる・マナー	箸やスプーンは横からつかむ握りばしで、かきこんだり、つまんだりして食べる。食欲があり、好き嫌いはほとんどない。残さず食べる。食器は置いたまま食べる。牛乳をストローで飲むことが難しく、教師が手助けしてコップにいれかえて飲む。	①食器をもって食べることができる。 ①牛乳をストローをつかって飲むことに興味をもつ。 ②牛乳をストローをつかって飲むことができる。	・食べるおかつの食器を近くによせたりもったりする動作を、友達や教師のモデルで見せる。 ・牛乳のストロー口の紙をはがしたり、ストローを穴にさしたりすることを見せたり、一緒にやってみたりする。 ・ストローを口に含ませるように（口先にならないように）くわえるよう補助する。	①○ ①○ ②○
			食器を持って食べるようになり、位置を入れ替えることも自分でできるようになった。牛乳はストローをつかって飲むことができるようになった。バックつぶしは難しい。袋物を開けられないので、教師に頼む。待つ時は本を読む。	③教師の補助で、途中からバックつぶしをすることができる。 ①袋物は、お道具箱のはさみであけることができる。	・バックつぶしのやり方を、目の前で見せ、本人がいつでも手を出せるようにする。 ・はさみであけるやり方を、教える。 ・ジャムは袋の中身を教師が寄せて切りやすくする。	
		当番返却	興味をもっている。机のお盆を見て、足りないところにおかずやパンなどを配ることができる。一つの仕事を担当して行うことは難しい。	①個配のものを配る経験をする。	・色々な仕事ができるよう、言葉をかける。 ・本児が取りかかりやすいように、教師が手本を見せる。	①○
	ストロー配りができるようになった。前期は当番をやっていたが、現在は当番よりも、本を読んで待つことが気に入り、当番をやらない。		②1週間ごとの当番がわかり、当番をすることができる。	・教室に当番用のカードを設置して、当番であることを確認する。		

領域/環境	項目	状況(上段:4月、下段:10月)	目標(段階的に)	指導・支援の手立て	評価
基本的 生活習慣 ・身辺自立 ・健康	清潔 習慣	手やおもちゃ、教材をなめたり、かんだりする。トイレの後の手洗いの言葉かけが必要。泣いた時に一気に鼻水を出す、必要に応じてかむことが難しい。ハンカチ、ティッシュの携帯や、手洗い後の手ふきの習慣が身につけていない。歯みがきの習慣が身につけていない。	①手洗後はハンカチで手を拭くことができる。 ①ハンカチ・ティッシュを身につけることができる。	・トイレの後、教師が見本を見せながら、手洗いするように言葉をかけ、ハンカチで手を拭く。 ・「はちつな調べ」で、意欲を高める。	①○ ①△
		色々なものをなめたり、かんだりすることは続いている。ハンカチを身につけようとするようになり、手洗後は、ハンカチで手を拭くようになった。ティッシュはお道具箱に入れている。「歯みがきしてから休憩をする」ことを伝えると、歯みがきをするようになってきた。	②ティッシュを身につけることができる。 ①食後は歯みがきをする。	・ティッシュを使う場面を設定する。 ・給食に行く前に、食後の歯みがきを確認する。	
	健康 /安全	授業中室外へ出ることがある。(教室、体育館前、図書室)追いかけてもらいたい。また、チャイムを聞いて教室に帰ってくるができない。背をまっすぐにして座り続けることができず、イスにあがったり、机に伏せたりする。階段は下りる時には一段ずつになる。	①正しい姿勢で座ることができる。 ①個別学習が終了するまで、着席していることができる。	・できている時に誉める。 ・授業中室外に出るときには、教師が付き添う。 ・体力の増進。(→体育) (時間について→算数)	①△
		授業中に教室を出ることは減ったが、学習の途中席を離れることは多い。		・その時間に行う個別の学習の教材を示す。(15~20分) ・個別学習後は、席を離れて行う活動を用意する。 ・学習の終了後は授業カードを取って終了を確認する。	
	そつじ 整理 整とん	4月始めは、掃除時間は1年生なので、上級生が掃除をする間は自由に教室にいます。掃除に興味を持ち始めたので、身体状況から小さいミニほうきをつかうようすすめている。やりたい道具があるときには、都度指導している。(ミニほうき、机ふき、床ふき)	①掃除の時間に掃除をする。 ②ミニほうきで、ゴミを集めることができる。	・ゴミを集める意欲を高めるために、細かい紙を床にまく。	①△ ②○
		学級掃除では、ミニほうきでゴミを集めることができるようになった。長いほうきに興味があり手に取るが、扱い方が難しく、危険な面もある。縦割り掃除の時には、上級生に甘えて遊び、掃除にならない時もある。教師がついている。	①あおぞら教室では、掃除の時間に掃除をすることができる。 ③長いほうきの使い方が上手になる。	・手をどって掃き方の指導をする。 ・長いほうきの柄を、本児用に少し短くする。	
人との関わり ・社会性 (行動/ コミュニケーション)	あいさつ	朝のおはよう、帰りのさようならを言うことができる。ありがとう、ごめんなさいなどのやりとりの言葉や動作がほとんど見られない。「ごめんなさい」は促しても拒否することがある。	①促されると「ありがとう」の言葉と動作ができる。	・機会をとらえて教師が手本の言葉を言い、復唱を促す。	①○
		促されると「ありがとう」の言葉と動作が見られるようになってきた。	②自分から「ありがとう」の言葉と動作ができる。 ③促されると「ごめんなさい」の言葉と動作ができる。	・歌「すてきな言葉」を動機付けに導入する。 ・お気に入りの人形と一緒にする。	
	要求 の伝達	言葉は発音が不明瞭なため、相手に伝わらないことが多い。思いが伝えられないと、ぐずったり泣いたりする。物によっては、ほしいものの写真を示したり、指さしたりして相手に伝えようとする。友達同士では、一つのおもちゃを奪い合いけんかになることがある。譲ることができない。	①着替えの時の「ボタン(やって)」が言える。 ①いやな時には「やめて(ください)」が言える。 ①ほしいものがあるときには「とって」が言える。	・着替えの時にははずす前に「ボタンやって」を復唱を促し、言えたら教師がボタンをはずす。 ・それぞれの状況に応じて「やめて」「とって」の言葉の手本を教師が言って復唱を促し、言えたらそのことがかなう状況をつくる。	①○ ①○ ①○
		目標とした3つの場面の言葉は、活発に発せられるようになった。泣くことも少なくなった。	①「どうぞ」が言えるようになる。	・教師が仲介して、お気に入りの人形と一緒に言う。譲ったり譲られたりする場面をつくる。	
指示 理解	少人数	指示を聞いて、従うことが難しい。気持ちの切り替えが難しい。	①「席にすわるよ」を聞いて、行動できる。 ①「外に行くよ」を聞いて、行動できる。 ①「1年O組に行くよ」を聞いて、行動できる。	・「友達が手本の行動をして、それを教師が誉める」ことを見せる。	①△ ①△ ①△
		言葉の意味や行うことについては、ある程度理解されているが、気持ちの切り替えによるところが大きい。	①「席にすわる」を聞いて、行動できる。 ①「外に行く」を聞いて、行動できる。 ①「1年O組に行く」を聞いて、行動できる。	・お気に入りのキャラクターのぬいぐるみと一緒に行動する。 (聞き取る→国語)	
	集団 場面	集団(朝会・交流)の中では聞きとれていない。その場に5分ほどは静かにいることはできる。時間が長くなると、動いたり声を出したりする。周りの動きに沿うために言葉かけや手つなぎが必要だが、嫌がり拒否することが多い。	①教師と一緒に交流学級の列に並んでいることができる。	・教師がそばにつく。 ・教師や友達が手つなぎをして移動する。	①○
朝会は、静かに並んでいることができるようになった。遅れたときには、後ろに並ぶことも理解できた。列移動の時には遅れたりはなれたりする状況はあるものの、沿って動けることが増え、手つなぎもできるようになった。		①一人で交流学級の列に並んでいることができる。	・本児も含め、周りの児童にお話中は静かにするよう指導する。		
移動	教室から出ると、自由に好きなところに行く。上の階に上がることが多い。必要に応じた移動が、まだ難しい。	①特別教室の位置を覚え、移動することができる。	・校内探検を行い学習する。 ・教室移動の時には、教師が必ず付き添う。	①○	
	特別教室の位置を覚えた。「OOに行く」と伝えると、目的意識を持って向かうようになった。	②学級で一列になって移動する。	・並ぶ意識を高めるために、廊下に順番のテープをはる。		

	項目	状況(上段:4月、下段:10月)	目標(段階的に)	指導・支援の手立て	評価
国語	読む	ひらがながわからない。あまり興味をもっていない。	①ひらがなの上下の向きがわかる。 ②いくつかの字カードの中から、言われた字が選べる。	・字カードで学習する。 ・好きなキャラクターを取り入れる。	①○ ②△
		興味関心が高まり、ひらがなをどらえては「あいうえお」と、読むようになった。教科カードの「あさのかい」「きゅうしょく」「そうじ」などは、それが何を示しているかを考えて行動するようになっている。	②いくつかの字カードの中から、言われた字が選べる。 ③自分の名前が選べる。 ④2文字の単語のカードが選べる。	・字カード・単語カード・絵カードで学習する。	
	聞く	絵本など、見ながら聞くお話には、とても興味を持っているが、集中力が続かない。友達の話していることを聞くことは難しい。	①短いお話の本を、聞くことができる。	・読み聞かせは短いお話を選ぶ。	①○
		絵本には興味を持っているが、気が向かないときもある。簡単な指示の言葉を聞いて指示に従うことが難しい。	①指示の言葉を聞いて行動で示すことができる。	・授業で「聞き取り」ゲームを取り入れる。 (立つ・座るなど、〇〇を持って来るなど)	
	話す	単語でいくつかの言葉を言うが、言葉が不明瞭なため、相手に伝わりにくい。本児も伝わらないという気持ちをもっているようで、あまり声を発しない。	①短い言葉を復唱する。 ①コップでぶくぶくができる。	・発声しやすい、短い言葉や擬音を取り入れて話しかけ、復唱を促す。友達が手本になる。 ・水をコップの底に少しにする。(夏休み)	①△ ①○
		夏休み中にぶくぶくができるようになり、誕生日会では、7本のろうそくの火を吹き消すことができた。復唱は意欲的ではあるが、発音には困難がある。	①短い言葉を復唱する。	・今までのことを継続しつつ、専門機関での相談を受け、今後について検討する。	
	書く	えんぴつを正しく持つことが難しい。運筆力が弱い。線に沿ってなぞることが難しい。	①直線や簡単な線をなぞり書きすることができる。 ②一画のひらがなを見て、書くことができる。	・フェルトペン・パスを利用する。 ・塗り絵をする。	①△ ②△
		線に沿ったなぞり書きにも慣れ、意欲的に書こうとするようになった。	①短い直線や〇、1~2画のひらがなをなぞり書きすることができる。	・フェルトペン・パスを利用する。 ・塗り絵をする。	
	(劇遊び 理解と 表現)	お話を聞いたり、加わって演じたりして楽しむことができる。「おおきなかぶ(9~10月)」	①お話の流れを知る。 ②やりたい役を選ぶことができる。	・繰り返しの内容にする。 ・せりふの言葉を、みんなで動作をつけて言う。	①○ ②○
		「はっぴきのこぶた」	①お話の流れを知る。 ③動作や言葉で、表現することができる。	・せりふの言葉を、動作をつけて言う。 ・友達と、言葉でやり取りするよう計画する。	
算数	数量(計算)	発音は不明瞭だが音とリズムで数唱をする。1対1対応ができる。	①1~10の数に興味をもつ。 ②数字の上下の向きが分かる。	・数字の歌を歌いながら、カードを並べる。	①○ ②○
		数字の歌を覚えて、楽しくカードを並べている。	③1~5のカードを順に並べられる。 ④1~10のカードを順に並べられる。 ⑤数字の示す量がわかる。	・ゲームを取り入れて数の学習をする。(ポーリングなど)	
	金銭	買物で、さいふからお金を出して払うことはほとんど経験がない。	①さいふから硬貨を出して、レジの人に渡すことができる。	・練習をして、買物場面で実践する。 ・硬貨1個(10円玉100円玉)を使う。	①○
		買物に行く時、レジで自分から財布を開けてお金を払おうとするようになった。	②硬貨の種類別に分けることができる。 ③言われた硬貨をとることができる。	・1円5円10円50円・・・と、提示する硬貨の種類を増やして行く。	
	図形	パズルには興味があるが、内容によっては難しいものがある。	①色々な2Pパズルができる。	・色々なタイプのパズルを用意する。 ・難しいときには1ピース組んでから、取り組めるようにする。	①△
		興味をもって取り組んでいる。	①色々な2Pパズルができる。 ②色々な3Pパズルができる。		
	時間・日にち	時間・日にちについての理解は難しい。チャイムを聞いて行動することは難しい。	①授業が終わったら、時間割カードをはずす。 ②休憩の後、チャイムを聞いて教室に自分で帰ってくるができる。	・学習の終了に、カードをはずして「おわり」と言う。 ・始めは教師が迎えに行くが、徐々に見守る。	①○ ②○
		授業の終わりがわかると、自分から授業カードを取るようになった。休憩時間の後は、自分で戻ってくるできるようになった。	③タイムタイマーの赤い時間を見て、学習に取り組む。	・タイムタイマーに関心をもてるよう、チャイムに合わせて注目するよう使う。	
順番	待つことが苦手で、友だちとトラブルになることがある。	①列に並ぶことができる。	・上級生には下級生に譲ることをすすめて、できるだけ、早い順番で並べるようにする。	①○	
	順番に並べることが増えた。そのことでのトラブルは減った。	②遅い順番でも並んで待つことができる。	・順番が分かりやすいように、何番目かを数字カードで示す。		

領域/環境	項目	状況（上段：4月、下段：10月）	目標（段階的に）	指導・支援の手立て	評価
生活		動植物には、今まであまり関わりのない。	①教師と一緒にあさがおの水やりができる。	・教師がさそって、水やりをする。	①○
		誘うと、水やりを意欲的に行う。	②教師と一緒に畑の水やりができる。	・本児用のペットボトルを、くつばごに置く。	
図画工作		道具や材料を使った経験が少ない。パスは意欲的につかう。	①好きな道具でかこうとする。 ①のりやはさみを自分から使ってみる。	・機会あるごとに、色々な道具や材料を提示する。	①○ ①○
		色々な道具に興味があるが、汚れることを嫌う。活動を中断して手洗いをし、水遊びになる。	②パスやマジック、絵の具など色々な道具を使ってみる。 ②正しいもち方ではさみを使うことができる。	・使い易いように、道具を整える。濡れ雑巾を用意する。 ・正しくもって使ったときには、誉める。	
音楽		歌や踊りを好む。気に入った曲は、口ずさんでいる。手遊びに興味がある。	①楽しんで歌ったり、踊ったりする。 ②新しい歌の歌詞を覚えて歌うことができる。	・踊りを取りいれる。	①○ ②○
			②新しい歌の歌詞を覚えて歌うことができる。	・曲のリバートリーを増やす。	
体育		活発に動くが、筋力が弱く、足元が不安定である。	①朝のランニングで1周走る。 ①色々な運動を経験する。 ①ラジオ体操を覚えてすることができる。 ①運動会で、表現の振り付けや移動を覚えて、みんなと一緒に活動することができる。	・上級生と一緒に走る。継続する。 ・体力測定の数値を記録する。 ・教室で踊りのCDやビデオを流して練習する。	①○ ①○ ①○ ①○
		前期から、徐々に体力がついてきた。	②朝のランニングで2週走る。 ③朝のランニングで3週走る。 ②縄を両足で跳び越えることができる。		
生活単元学習		学習の内容は初めてのことばかり。前年のビデオを見て興味を示すが、話や写真ではイメージが持ちにくいようである。	①科学館の校外学習で、順番に並んで歩行できる。 ①連合野外活動で、みんなと一緒に行動することができる。 ①調理活動では、色々な仕事を体験する。	・ならび方、歩き方の練習をする。 ・調理器具の安全に気をつけて使うよう指導する。	①○ ①○ ①○
			②調理活動では、レシピの順番を教師と確認しながら活動することができる。	・おいも調理、うどんづくりや、あおぞらレストランの活動で、レシピを提示する。 ・調理器具の使い方や、レストランの対応の練習をする。	
特別活動（学活）		誕生日会の流れが理解できず離れる。プレゼントについて理解できていない。	①活動の一部に参加して、上級生のやっていることを見ることができる。	・興味の持てる歌やゲームに誘う。	①○
		前期までの誕生日会で、流れを理解して、楽しんで参加するようになった。プレゼント作りにも意欲を示すようになった。	②楽しんで誕生日会に参加することができる。 ③自分の誕生日会を喜んで、楽しむことができる。 ④担当の仕事を、行うことができる。（始めの言葉）	・誰の誕生日会があるのかを、写真などで分かりやすく示す。	
自立活動	コミュニケーション	遊びが始まると、楽しむことができる遊びが多い。友達との関わりには、教師の仲介を要する。	① ロンドン橋を楽しむことができる。	・手をつないで中に入ってきやすいように誘う。 ・友達との手つなぎや関わりの機会をつくる。	①○
		新しい遊びを行うと、楽しむことができ、ぬいぐるみでごっこ遊びにして楽しむようになった。	②ハンカチ落としを楽しむことができる。 ③フルーツバスケットを楽しむことができる。	・フルーツのカードを首から提げる。	
自立活動	体・手指の動き	指の細かい動きが難しい。指で細かいものをつまんだり、力を入れたりすることが難しい。	①木ビーズ（直径1～2センチ）をワイヤーに通す。 ②木ベグ（直径5ミリ×高さ3センチ）を穴にさす。はずす。	・5個から始めて、徐々に数を増やす。 ・困った時に、自ら要求するよう待つ。先取りして補助しない。	①○ ②○
		ビーズやベグには意欲的に取り組むようになった。	③5ミリビーズを、ゴムに通してプレスレットを作ることができる。 ④色を選んでプレスレットを作ることができる。	・ビーズを通すひも先は、テープで針状に硬くする。 ・段々数を増やす。 ・出来上がったプレスレットは、色々な人にプレゼントする。	

個別の指導計画

児童名 () 年生

平成 年 月 日

《今年度の目標》 ○
○
○

領域／環境	項目	状況（上段：4月、下段：10月）	目標（段階的に）	指導・支援の手立て	評価	
基本的 生活習慣 ・身辺自立 ・健康	排泄					
	着脱	着替え				
		靴				
	片づけ					
	食事	食べる・マナー				
		当番返却				

領域／環境	項目	状況（上段：4月、下段：10月）	目標（段階的に）	指導・支援の手立て	評価	
基本的 生活習慣 ・身辺自立 ・健康	清潔習慣					
	健康／安全					
	そうじ整理整とん					
人との関わり ・社会性 (行動／ コミュニケーション)	あいさつ					
	要求の伝達					
	指示理解	少人数				
		集団場面				
移動						

項目	状況（上段：4月、下段：10月）	目標（段階的に）	指導・支援の手立て	評価	
国語	読む				
	聞く				
	話す				
	書く				
	(劇遊ひ 理解と 表現)				
算数	数量（計算）				
	金銭				
	図形				
	時間・日・ち				
	順番				

領域／環境	項目	状況（上段：4月、下段：10月）	目標（段階的に）	指導・支援の手立て	評価
生活					
図画工作					
音楽					
体育					
生活単元学習					
特別活動（学活）					
自立活動	コミュニケーション				
	体・手指の動き				